

第2回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、令和元年度 第2回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和元年 9月13日(金曜日) 13時55分～15時40分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

国有林材の供給調整の必要はないとの結論となった。

4. 主な意見等

- トドマツの原木在庫は、前年と比較して増えているものの、生産調整により原木在庫を増やす工場があるなど、一部地域で中・小径木の不足感はある。
- カラマツの原木在庫は、地域的に差はあるものの、平均的には前年と比較して増えている。しかし、依然として不足感があり、積み増しをしたいと考えている工場は多い。
- チップ用原料在庫は、エゾ・トドで3割ぐらい、カラマツで1割ぐらい前年と比較して少ない状況。
- 素材生産、運材ともに、昨年より天候が良く順調に推移している。
- 素材生産に携わる担い手の不足感がある。林業大学校には期待しているが、今後の担い手の確保が課題。
- 本州へのトドマツ・カラマツ原木の移出が昨年より増えているので、その動向について引き続き注視する必要がある。

- 米中関係や為替の動向による輸入材や木材製品の動きについても、引き続き注視していく必要がある。

- バイオマス発電では、原料の2割から3割超ぐらいまで末木枝条でまかなえるよう集荷に努めている。また、河川敷の支障木や流木などの処理もふくめて木質原料の確保に努めている。